

第3回国連防災世界会議における消防庁の取組**○第3回国連防災世界会議**

平成27年3月14日（土）から18日（水）まで、仙台市において第3回国連防災世界会議が開催されます。国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回（1994年、於：横浜）、第2回（2005年、於：神戸）の会議ともに日本で開催されています。第2回会議では、2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定されるなど、大きな成果をあげています。第3回国連防災世界会議では、兵庫行動枠組の後継枠組の策定が行われる予定で、延べ4万人の参加者が見込まれています。

（1）本体会議

本体会議は国連主催の会議で、「兵庫行動枠組」の後継枠組の策定に向けて議論する「全体会合」と各国の閣僚等により防災全般の展望を議論する「政府間対話」（計8セッション）、有識者により個別のテーマについて議論する「ワーキングセッション」（計33セッション）で構成されます。

（本体会議への消防庁の参画については、決定次第、別途お知らせします。）

（2）関連事業

会議期間中には、政府機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、諸団体などが主催する復興防災をテーマとしたシンポジウム・展示などの関連事業が多数開催されます。消防庁は、総合フォーラムと、日本の優れた消防技術を紹介する消防救助演習及び消防車両等の屋外展示を実施します。

【消防庁主催の関連事業】**1 総合フォーラム**

3月14日（土）15：30～17：30、東北大学百周年記念会館川内萩ホールにおいて、総合フォーラムを開催します。本フォーラムでは、「地震、津波、土砂災害時等における消防団、地域住民の役割」をテーマに、5組6名による活動事例発表と室崎益輝神戸大学名誉教授による総括を予定しています。活動事例発表者及び発表内容は別紙1を御参照ください。

2 消防救助演習及び消防車両等の屋外展示

仙台市役所において、仙台市消防局特別高度機動救助隊がロープを使用して屋上からの降下等を行うほか、東京消防庁第三消防方面本部消防救助機動部隊が化学工場での災害を想定した消防救助演習を実施します。また、消防特殊車両、消防研究センターによる消防科学技術のパネル、消防用偵察ロボット等の展示を行います。

夢メッセみやぎでは、消防庁の緊急消防援助隊無償使用車両である習志野市消防本部の「拠点機能形成車両」と、新潟市消防局の「津波・大規模風水害対策車両」を展示するとともに、水陸両用バギーによる人命救助のデモンストレーションを行います。詳細は別紙2を御参照ください。



連絡先

(本体会議及び関連事業の2について)

消防庁国民保護・防災部参事官付

担当：永作国際協力官、原口係長

TEL：03-5253-7507（直通）

FAX：03-5253-7537

(関連事業の1について)

国民保護・防災部地域防災室

担当：岡地課長補佐、小山田事務官

TEL：03-5253-7561（直通）

FAX：03-5253-7535

消防庁主催 総合フォーラム 活動事例発表内容

～ 地震、津波、土砂災害時等における消防団、地域住民の役割 ～

1. 日時：平成27年3月14日（土）15：30～17：30
2. 場所：東北大学川内萩ホール（宮城県仙台市）



宮城県南三陸町役場
佐々木 由貴

「東日本大震災を経験して」

宮城県南三陸町で生まれ育った私は、平成23年3月11日、勤務先の志津川公民館で東日本大震災に遭った。避難先の町営住宅で2日間43名の避難者と共に孤立。被災後3日目にして町の震災対策本部へ。その後、約3週間、情報収集管理班として避難情報、物資要求の整理などの業務にあたった。

本フォーラムでは、「災害はいつ起きるかわからない」という教訓を踏まえ、「防災」を考えるきっかけとしていただくため、自らの経験を話したい。



福島県南相馬市消防団
団長 長澤 初男

「東日本大震災 南相馬市の状況と消防団活動」

東日本大震災時には想像を絶する大津波が襲来し、火力発電所における重油火災や原発事故などが生じた。消防団は、地域住民の避難誘導、救助活動、行方不明者捜索、遺体収容、防犯活動等の役割を担い、避難誘導中に仲間が殉職する中、夜間の老夫婦の救助や明け方の水に浸りながらの女性の救助、原発事故による恐怖の中での活動など、不眠不休で活動を行った。

本フォーラムでは、東日本大震災時の消防団の活動状況や、自ら危険を察知すること・自主避難の重要性、「来ない」「来るかも」でなく「来る」という行動をとることなどの教訓を発表し、この大災害を忘れることなく後世に伝えていきたい。



岩手県立大学
総合政策学部1年
菊池 のどか

「いのちてんでんこ～釜石東中学校の活動～」

東日本大震災発生時、私は釜石東中学校の3年生だった。平成23年3月11日、中学校にいた私たちは体験したことのない激しい揺れに襲われ、すぐに「津波が来る」と思い、まだ揺れが続く中、避難を始めた。サイレンの音と泣き叫ぶ小学生の声は今でも忘れることができない。小学校と中学校は日ごろから津波を想定した訓練を行っていたので、避難することが出来た。

本フォーラムでは、災害当時の避難状況や防災教育の重要性について発表する。



長野県白馬村
堀之内区自主防災組織
会長 鎌倉 宏

「長野県神城断層地震時における自主防災組織の活動」

平成26年11月22日に長野県北部の白馬村・小谷村を震源とする最大震度6弱の長野県神城断層地震が発生した。白馬村でも震度5強の激しい揺れを記録し、全壊住宅等が42棟、半壊住宅が31棟、一部損壊住宅等が151棟を数え、負傷者も23名発生するなど大きな被害をもたらした。一方で、住民らによる迅速な安否確認と救助活動により死者をゼロに抑えた。白馬村の中で特に被害が大きかった堀之内・三日市場地区では、日頃から「災害が起きたらどう行動するか」を地域で話し合い、地域支え合いマップの作成など、地域の特性を地域住民が理解していたことが功を奏した。

本フォーラムでは、この災害時の実際の救助等を含めた活動内容を発表し、地域の共助の重要性について世界に発信する。



三日市場区自主防災組織
会長 太田 史彦

「台風26号土砂災害 大島町消防団活動報告」



東京都大島町消防本部
次長 羽根 高明

平成25年10月16日深夜から早朝にかけ、台風26号が関東南岸を激しい暴風雨を伴い通過し、1時間に122ミリ、24時間雨量824ミリの豪雨が東京都大島町元町地区を集中的に襲い、想像を絶する大規模土砂災害が発生した。この土砂災害により、死者36名、行方不明者3名、負傷者22名、倒壊家屋等287戸の被害をもたらした。島民の尊い人命、財産が奪われる結果となった。大島町消防団員約300名は、17日間、救出救助、捜索活動、瓦礫除去、住民の避難誘導等の活動を展開した。

本フォーラムでは、消防団という組織の多機能性及び地域との密着性などについて発表し、消防団の重要性を多くの方々へ知っていただきたい。

我が国の優れた消防科学技術や東日本大震災を踏まえた対策等を紹介するために、仙台市役所本庁舎において消防救助演習・屋外展示と、夢メッセみやぎにおいて屋外展示を行います。

仙台市役所での消防救助演習・屋外展示

○仙台市消防局特別高度機動救助隊による消防救助演習

日程:平成27年3月14日(土)

概要:高層階にいる逃げ遅れた人の救出、市役所屋上から地上部分に張られたロープを降下する救助演習を行います。

○東京消防庁第三消防方面本部消防救助機動部隊による消防救助演習

日程:平成27年3月15日(日)

概要:化学災害の現場から傷病者を救出・救護する演習を行います。

○消防科学技術の紹介

日程:平成27年3月14日(土)・15日(日)

概要:消防研究センターによる消防用偵察ロボット、無人ヘリ、パネル等の消防科学技術の展示、水陸両用バギーの展示を行います。

夢メッセみやぎ屋外展示場での屋外展示

東日本大震災をふまえた消防庁の対策等を紹介

○日程 平成27年3月15日(日)～17日(火)

○展示内容及び参加機関

- ・拠点機能形成車両の展示 (習志野市消防本部)
- ・津波・大規模風水害対策車両の展示 (新潟市消防局)
- ・水陸両用バギーの展示、走行実演 (消防研究センター、新潟市消防局)

